

## 県連創立 50 周年記念海外登山 『バリ島サンライズ・トレッキング』を終えて

安彦秀夫（東葛山の会）

日程：2015年10月14日（水）～20日（火）＜6泊7日＞ 20名  
14日（水）～19日（月）＜5泊6日＞ 4名

参加者：団長：廣木会長（ちば山）、CL/企画：安彦（東葛）、  
SL：村尾（ちば山）、広川（松戸）、吉武（かがりび）  
＜内訳＞ちば山5、松戸4、東葛4、こまくさ3、らんたん3、ふわく2、  
シリウス1、茂原1、かがりび1 （男性14名、女性10名）

上記二つの日程で、参加者24名が、赤道直下のバリ島（インドネシア）の『山』と『世界遺産』、そして『バリ舞踊』などを満喫してきました。

2014年11月13日（木）開催の『県連創立50周年記念事業第3回実行委員会』で、海外登山として『バリ島サンライズ・トレッキング』を、2015年9月～2016年8月の期間に、日程4～7日間で実施することを提案し、決定されました。

下見を全く考えていませんでしたが、会の何人かから『下見を是非実施して欲しい』と強く言われ、急遽下見実施に向けて12月下旬より具体的調査を開始しました。

4月8日（水）～14日（火）で下見実施を進めていましたが、直前になり、『現地寺院の祭礼のため、4月末まで登山できない』と連絡があり、急遽中止にしました。

早急に下見をしたいことより、5月13日（水）～19日（火）に実施することにし、東葛山の会の10名で実施しました。（下見については、『ちばニュース7月号』参照）

下見実施後から今回までの『経緯』と『裏話』を主に報告させていただきます。  
各山の登山の様子などについては、他の参加者に報告させていただきます。

### <1> 募集要項決定そして参加者募集…

下見時にお世話になった旅行会社に実施時期を相談したところ、乾期から雨季へ移る直前の『10月』を勧められました。

次の要項を『ちばニュース6月号』に掲載し、募集をスタートさせました。

- ・日程：10月14日（水）～20日（火）＜6泊7日＞ 他に1日早い帰国もあり
- ・費用：約20万円（飛行機・ホテル・専用車・登山ガイド・観光・食事等含む）
- ・募集人数：30名（先着）
- ・申込方法：参加希望者は、私までメールで申込書を請求し、必要事項を記入し、メールで正式に申し込む。併せて、パスポートコピーも提出する。

当初の予想に反して、参加申込みの出足が悪く、『ちばニュース7月号』でも参加を呼び掛けました。更に、締切日を延期し、『ちばニュース8月号』でも…。

その結果、9会の23名から参加申込書が届きました。（私を含めて24名）

3日目の『アゲン山』登山は、当初、『主峰』と『南峰』の2コースを考えていましたが、『南峰』希望者が4名と少なく、『主峰（2名）』及び『フリータイム（2名）』に変更していただきました。

### <2> 旅行会社との交渉…

当初の締切日（7/12）時点で23名でしたので、旅行会社に23名で飛行機やホテルの手配等をメールにて正式依頼しました（参加申込書&パスポートコピー添付）。

その後、1名を追加し、総勢24名（男性14名、女性10名）になりました。

具体的な日程（登山、観光、宿泊地など）を、旅行会社担当者と何度もメール交換したり、直接お会いしたり、電話で相談したりして煮詰めていきました。

具体的な内容（行程）が決まった後、『基本旅行代金（包括料金）』の見積書を、8月14日に提出していただき、詳細を確認し、若干修正後、金額を了承しました。

- ・参加日数は…？
- ・3山の中で、どの山に登山するか…？
- ・フリータイム希望者は、オプションツアーに参加するか…？

以上の違いにより、参加者個々の『基本旅行代金』を確定し、私から参加者の皆さんにメール配信しました。

＜ 旅行会社：株式会社サザンリゾートワークス TEL 03-6406-8881 ＞

### ＜3＞ 説明会開催…

9月10日（木）夜、船橋市西部公民館にて、旅行会社（小室会長）の同席のもと、21名の参加で実施しました。

私から、下見で経験したことを参考に作成した『一般的な注意事項』、『全体の行程表』そして『登山行程表』等について説明をしました。

また、旅行会社（小室会長）から、『注意事項』や『海外旅行保険』の説明を頂き、その場で、希望者には保険の加入手続きをしていただきました。併せて、フリータイム希望者には、オプションツアーのコース及び参加者を決定していただきました。

質疑応答後、『請求書金額』に、『オプションツアー代金』及び『海外旅行保険金』を加えた金額を、9月14日（月）までに振込みすることをお願いし散会しました。

### ＜4＞ 飛行機 e-チケット及び海外旅行保険証…

10月7日（水）に、旅行会社から、チケットと保険証が、佐川急便にて各参加者自宅宛てに送付され、翌日8日（木）には、無事届けられたようです。

事前に、『発送連絡』を参加者全員にメール配信し、『届かない場合は連絡をください…』と付け加えました。多くの参加者から『届きました！』というメールが届く中、2名から問い合わせ（メールと電話）がありました。

#### 1) 9日（金）に、『保険証は届いたが、e-チケットが同封されていなかった！』

e-チケットの控えを、私が全員分持っていたので、メールにて送付するとともに、良く調べることを連絡しました。その結果、『封筒にへばりついていました…』で、落ち着きました。封筒を直ぐに廃棄しなくて良かったですね。

#### 2) 10日（土）に、『未だ届いていないが…？』の電話がありました。

旅行会社は休みのため、小室会長の携帯電話（インドネシア）に連絡を入れ、状況を説明し、担当の帆足さんの携帯電話番号を教えてください、連絡を取りました。折り返しで、『佐川急便が配達先間違いで持ち帰り、本日10日午前中に配達されました』という連絡がありました。直ぐ、問合せ者に電話をし、無事届いたことを確認しました。やれやれ…。

e-チケットは私が持っているのでメール送付対応可能ですが、保険証については、最悪、出発当日成田空港まで帆足さんに持参していただく…ことも考えました。

### ＜5＞ハプニング続出…！？

現地でハプニングがありました。いくつかを紹介します。

#### 1) 2日目のバトゥール山下山で、麓の林道を歩いている際に、細かな浮石で滑り、転倒し、『右足骨折』の事故がありました（女性）。救急車にて病院へ搬送し、即入院し、翌日手術をしました。

幸い、回復状況が良かったようで、一緒に帰国することができました。

保険に加入していたので、全て現地窓口の旅行会社の方に手続きなどをしていただき助かりました。海外旅行保険加入の意義を再認識させられました。

- 2) 2日目夕方、ホテル近くのモンキーフォレスト（猿の棲む森）で、猿にバッグのファスナーを開けられ、『パスポート』を盗られました（男性）。気が付いたのが、翌日のため回収できませんでした。『一時帰国用のパスポート』を取得し、一緒に帰国することができました。（実は、私も、9年前に、インドネシアのジャカルタ近郊で、『車上強盗』に遭い、パスポート、eチケット、現金、技術資料等の入ったバッグを盗られました。命を取られなかったのでよし…と考えました。）
- 3) 3日目のアグン山下山時に、岩場で転倒し、『右手薬指骨折』という事故がありました（男性）。個人で保険に入っていたので、個人で病院に行き、処置をしたようです。海外では、語学達者でなければ難しいですね。
- 4) 4日目のサヌールのホテルで、チェックインし、『部屋に入ったら、他の客が既に入室済み…』という連絡があり、私も一緒に確認した後に、フロントに行き、状況を説明し、部屋を変更して貰いました（当然！）。
- 5) 同じホテルで、部屋のカードキーが使用できないケースが多発して再発しました。その都度、フロントに行き、状況説明し、最後はキーを代えて貰いました。
- 6) 同じホテルで、電気ポットが設置されていない部屋があり、フロントに依頼して配置して貰いました。スリッパもなく、同様に依頼して持って来て貰いました。  
<(4)、(5)、(6)が、連続で発生したため、私は、翌日の登山に備えて早く仮眠したかったのですが、ベッドに横になれたのは、遅くなってからでした。今回利用したホテルの中で、最も大きくランクが上であったにもかかわらず、フロントの接客態度が非常に事務的で印象が悪かったです。残念でした。(私見)>
- 7) 5日目のバトゥカル山下山後の昼食で、『今日は一人で、「ビル・ビンタン・ディンギン・ブサー（大瓶の冷えたビンタンビール）」を1本ずつ飲みたいね！』と皆で話し合いながら入ったレストランで、こんなことが待っているとは全く想像すらしませんでした。それは…、『在庫、小瓶5本のみ』でした。10人で均等にグラスに分けて、最後の山の無事下山を祝し、乾いた喉を潤しました。
- 8) 6日目、空港でのチェックイン時に、『eチケットが見つからない！』という人が現れました。私が全員分を持っていたので、難なくクリアー…。でも、それだけでは終わらなかったのです。それは…、搭乗直前に、搭乗ゲートが『9B』から『1B』への変更アナウンスがあり、空港の端から端までの徒歩での大移動を余儀なくされたのでした。実際は、『1A』でした…。バリ島の山・観光三昧の余韻に浸る時間もない、慌ただしい最後の夜でした。
- 9) 7日目、九十九里海岸上空で、飛行機が旋回しました。一瞬、9年前の県連創立40周年記念海外登山の『韓国：雪岳山（ソラク山）』の『成田空港着陸回避そして羽田空港への変更緊急着陸』が、頭を過ぎりました。幸い、天候は悪くなく無事着陸でき、一安心しました。

#### <6>登山ルートは土埃…

5月の下見をした際の『登山コースの印象』の一つに、『滑り易く、土埃が舞う』がありました。心配事の一つでした。

ところが、今回の登山では、その印象をはるかに超える『滑り易さと土埃の量』でした。特に、アグン山の樹林帯のルートには、粉状の土・砂礫の堆積が半端ではなく、一步進む度に土埃が舞い上がり、その中を、ヘッドライトを頼りに、列をなして歩くのですから、舞い上がる土埃の量は半端ではなかったと思います。その証拠に、下山後の鼻の中は真っ黒（真っ茶色）でした。

このような悪戦苦闘の登りのため、時間と体力を使い、更にとんでもない強風が森林限界を過ぎた砂礫帯でも吹き荒れ、主峰が手に届く所に見えていましたが、ナイフエッジのような砂礫の道を歩くことは危険と判断し、手前の『第1ピーク』で引返しました。救いは、『影アグン』と前日登ったバトゥール山等の眺望が得られたことです。

## <7>最後に…

風光明媚なカルデラ湖の世界遺産バトゥール湖畔に聳える『バトゥール山』24名全員、バリ島の最高峰『アグン山』12名、第2高峰『バトゥカル山』10名と、多くの参加者にトレッキングを楽しんでいただけたことと思います。

また、世界遺産や景観の優れた寺院の見学、バリ舞踊3種類（レゴン、ケチャツ、バロン）の鑑賞、そして海や湖沼の大自然なども満喫していただけた…と思います。

登山をされた人には、十分な睡眠も摂れない中を、気力を振り絞られて連日挑戦していただきました。疲れたとは思いますが、『やればできる…という自信』と、『やりきった…という達成感・満足感』を得られたのではないのでしょうか？

フリータイムを選択された方には、思う存分、赤道直下の自然や文化などに浸っていただけたことと思います。



10/15 バトゥール山



10/18 ケチャダダス見物後

私が山行を企画する際に常に心がけていることがあります。それは、『山100%、そして観光100%を楽しむ!』です。(決して50/50ではありません。)

更に、『他の参加者は、何をすれば満足するだろうか?』を考える前に、『自分は、いかにして楽しむか?』を優先させています。

自分が満足できないで、他の参加者が満足するはずがありませんから…。

参加者の皆さんのご協力のもと、全員が無事帰国できてホッとする中、取り組み始めから実施までの事を思い浮かべながら、この原稿を作成しました。

参加者の皆さん、そして、快く参加を許可していただきました各会の皆さん、ありがとうございました。また、このような機会を頂きました県連の廣木会長はじめ役員の方々に感謝します。旅行会社の親身な対応に改めて感謝します。

## <追記>

来年2016年が、県連の『満50歳』の年です。そして、私の所属する東葛山の会の『創立40周年』の年でもあります。具体的なことは何も決めていませんが、秘かに記念海外山行に想いを馳せています。関心のある方は、是非ご一報を頂きたいと思います。少なくとも今回のような連日の夜間登山は考えていません。今の所は…。

(2015/10/30/Fri.)

☆ 創立50周年事業の大きな柱である「バリ島サンライズトレッキング」が終わりました。安彦CLの経験豊富なリーダーシップに敬服し感謝いたします。下見を実施していただいた「東葛山の会」の皆さんにお礼を申し上げます。そして参加者全員と共に、素晴らしい思い出を共有して千葉県連の力にしたいと思います。  
——千葉県連 会長 広木国昭——

## 県連 50 周年記念アグン山山行報告

2015 : 10 : 21 記

記録者) ちば山の会) 田中孝平

(山 域) : インドネシア バリ島 アグン山 (3142m)

(コース) : ペングブカン寺院～山頂～ペングブカン寺院 (往復コース)

(日 時) : 2015 年 10 月 15 日深夜～16 日

(天 候) : 快晴 (強風・砂塵が舞い息苦しい状況)

(参加者) : CL 安彦・A 班 田中・菅井・村尾・湯浅・佐藤 (誠)・市橋・佐藤 (か)・B 班 広川・

杉山・青山・吉武・サンライズワールド (旅行社) 小室 [各位の敬称略で記載]

現地ガイド 4 名 (A 班プトウ・ニョマン 2 名) (B 班 ガイド氏名記憶無 2 名)

(山行タイム) : 15 日 (木) 現地時間 (日本より 1 時間遅い) : 例 (日本 4:00⇒バリ 3:00)

ホテル「ペルティウィ・リゾート&スパ」21:30 発＝ペングブカン寺院 (登山口) 11:15 着

16 日 (金)

登山口 15 日 11:30 発～山頂 P1 (登頂 11 名 : 先頭 7:30 着 最終 11 人目 7:55 着) 8:10 発  
～途中で引き返し者 3 名 [MU・YU・SA (S)] を合流～岩小屋風岩溝 9:15 着 (食事と  
お茶の大休憩) 9:35 発～ペングブカン寺院 (登山口) 13:00 着「全員」の下山完了する。

登山口チャーターバス 13:30 発＝レストラン (昼食) 14:30 着 15:30 発＝ホテル 17:00 着

(山行報告) : 15 日の夕方よりホテルにて仮眠するが、寝付けずに横に成るだけで集合時間となり身支度を済ませチャーターバスで登山口に向け出発する。

深夜に登山口へ到着すると現地ガイド 4 名 (長靴履き) が待っており、ガイド頭により線香とお供えにより、お祈りが行われ旅行社の小室さんを加えて 13 名+ガイド 4 名で登山を開始する。(ガイド頭のお祈りは数か所で行われた。)

16 日の 0 時を跨いででの登山であるが、風が強く火山灰の砂塵と強風の中では暑さを感じず 暗闇の中をただ黙々と前進するのみである。(マスク無では耐えきれない砂塵であった。)

中腹までの登りは火山灰の固まった堅い地盤に火山灰砂と砕けた小石が混ざり滑り台の様に歩き辛いが要所々にツタを使いロープもどきのお助け紐と布を裂いて付けた紐が付けられては居るが、鎖に慣れた我々には

実に心もとない物であった。

登山途中ではガイドの足が速い為にユックリ歩いての意味で「プランプラン」と声掛けをしながらひたすらライトの明かりに照らされる滑りやすい登山道を上へ上へと登る。樹林帯を抜け 5:30 頃より段々と明るく成り 6:00 にはライト無し状態で歩ける様になって来た。ただ登り一方の道で、ふと後方を振り返ると「影アグン」がクッキリと三角形に映し出され眠い目と心が引き締まり元気を取り戻し、強風の中で砂塵に耐え寒さに耐えながら上部の岩場地帯に進んで行くことになる。

岩場地帯に入ると山頂部が中々見えなく一つ登ると、またその上に稜線が続く道のりに夜通しの歩みで足が上がらないが気力で登って行くと山頂稜線に出る手前に 3m 位の深さの岩溝があり此処で休憩して後続を待つが、長蛇の列と成り中々皆は到達しない、

先頭部3名とガイド1名で山頂を目指すこと40分位の所に60cm位の4人が入れる岩影がありガイドと相談(手話の様に)してこの先は風よけが無いのでここで(TAN・ITI・SUG・ガイドガイドのプトウの4名)は後続を待つことにしガイドの持参テルモモスの御茶を頂ながら食糧を口に入れ休むこと。20分強でHIRさんYOSさんら後続が来て再び登り出す。

ここから1時間ほどで山頂を形成する頂き稜線に出てP1山頂に合計で10名が到達する。

この先に片道1時間余りで最高地点の頂まで行けるが、強風と途中のナイフエッジの為に、CL判断によりP1を到達点として下山に移る。記念撮影の後に下山していくと途中で残る3名と後続ガイドに合流し全員で強風の中で注意深く下山をして行く。3mの岩溝まで下りて大休憩を行い、食事とガイドの入れてくれたコーヒーで体を温め、此れより長い下山路(往路)を戻ることになる。1時間ほど岩場地帯で慎重に皆が下りて行くが降りる速度の違いから前半組にガイド2名・後半組にガイド2名が付く形で下り特に弱い方にガイドが専属の形に成りどうしても、長い列に成って行く。そんな中で推定2,800m付近にてMURさんが3m位の岩場を下りる際に足を滑らし前のめりに1回転して転落、止まらずに再度後方宙返りの様にもう1回転して仰向けに緩斜面にて止まる。本人は何が起きたのか寝たまま空を見上げ虚ろな表情であった。4m位上に居た私が声を掛け、足は大丈夫か頭は痛くないか?と聞くと大丈夫と返事があり、側に行き身体を確認したところ擦り傷や、ぶつけて痛いところは有るが、頭と足には異常が無いと判りホッと一息

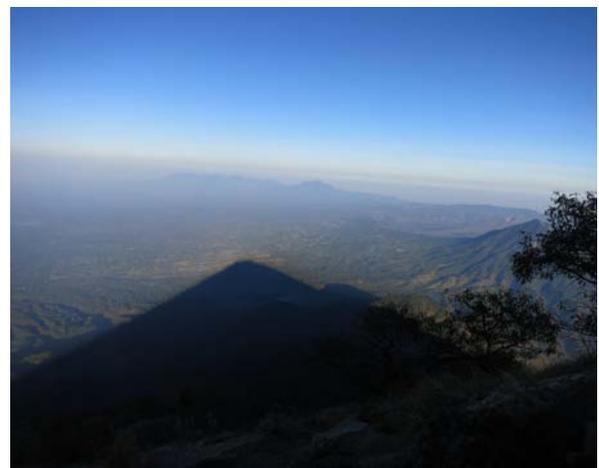
をつき、念のため痛い所が有ればすぐに言う様に指示をして彼をカバーしながら下山に掛かる。

1時間ほど歩くと右手首が少し痛いのと右手中指の先端(第1関節~第2関節辺りが動かなく痛むと訴えがあり、シップとテーピングで固定して下山を慎重にして行く。

中間部よりは疲れや寝不足と道の悪さで何度か転倒をする者も出たが、全員が登山口まで下山する事が出来た。

ホテルに戻り、1夜明けて怪我した右手の様子を見たが指が青く腫れ、痛みがあり動かせない状態であったので即、病院に行く事に決め保険会社に連絡し現地の病院を指定頂き受診した。結果は指の骨折と判って仮固定をして頂き腫れを引かせる薬を処方して貰い、帰国後に正式な治療を行なう事で病院を後にした。

MURさんは旅行保険については個人で入って居た為に、自ら電話をして保険会社や病院と対応していた。(私では英語が不慣れで無理があり旅行会社の連携した保険で良かったと感じた。)当然ながら彼は3山目のバトゥカル山は登山を棄権しホテルで休養し20日に皆と共に帰国をした。



影 アグン山